

## 高知県を掘り下げる あったかの効果・課題

(社会福祉推進事業報告)

2013年2月17日(日) 9:00~10:30

### パネラー



## 明神 利恵(みょうじん りえ)

津野町社会福祉協議会 (高知県) 主任

1975(昭和50)年生まれ

1994(平成6)年 東津野村(現津野町)社会福祉協議会就職

2010(平成22)年 地域の方々に協力を得て、津野町で第1号のあったかふれあいセンター「鶴松の風」開所。その後、4ヶ所のサテライトを開所する。

現在、コーディネーター1人、支援員2人の職員体制で、地域の住民の皆さんと一緒に、地域の課題をみんなで共有し、支え合いや助け合いで解決していけるような取り組みを目指している。



## 宮川 茂俊(みやがわ しげとし)

黒潮町 健康福祉課 (高知県) 課長

1960(昭和35)年生まれ

高知県立中村高等学校卒業。

1978年(昭和53)年旧大方町役場(市町村合併後黒潮町役場)に入庁。建設課、税務課、総務課、住民課等を経て、2011(平成23)年4月健康福祉課課長補佐。

2012(平成24年)4月より現職(健康福祉課長)。



## 日置 真世(ひおき まさよ)

フリー場づくり師

長女の障がいきっかけに親の会活動を経て、2000(平成12)年地域生活支援ネットワークサロンを立ち上げ、子どもや障害児者に関する地域課題に、当事者が主役となって取り組む場をつくるコミュニティワークを軸に、子ども・家庭支援、障がい児者の支援、就労困難な若者の居場所など、多種多様な事業の企画・コーディネート役として実践を積む。

2008(平成20)年に現場を離れ、北海道大学にて実践を研究する機会を得て、2011(平成23)年からは特定の所属から離れ、フリーで「北海道から地域づくりを創造・発信する場づくり師」として活動中。



## 山地 和 (やまじ かず)

高知県 地域福祉部 地域福祉政策課 課長

1963(昭和38)年生まれ  
1982(昭和57)年4月 高知県庁に入庁  
2004(平成16)年4月 高知県地域づくり支援課 地域支援企画員  
2009(平成21)年4月 高知県地域福祉部地域福祉政策課 地域福祉推進チーム長  
2010(平成22)年4月 高知県総務部秘書課 課長補佐  
2012(平成24)年4月 高知県地域福祉部地域福祉政策課 課長

### サポーター



## 中島 修 (なかしま おさむ)

厚生労働省 社会・援護局地域福祉課 地域福祉専門官

1970(昭和45)年、長崎県福江市(現、五島市)生まれ。社会福祉士  
日本社会事業大学大学院博士前期課程修了。その後、社会福祉協議会での勤務を  
経て、岩手県立大学助手、日本社会事業大学実習講師、東京国際大学専任講師を  
経て現職。  
大学教員時代は、小地域活動や地域福祉計画策定に参画。コミュニティソーシャル  
ワーカーの養成にも取り組む。  
厚生労働省では、2009(平成21)年度より国のモデル事業である「安心生活創造事  
業」において、要援護者把握等の見守り・買い物支援に取り組むとともに、総合相談、  
権利擁護、地域福祉計画、東日本大震災における災害支援等、地域福祉の再構築に  
関する事業を中心に担当している。  
主な著書は、『地域福祉論—理論と方法—』(第一法規)、『地域福祉の理論と方法』  
(ミネルヴァ書房)、『日常生活自立支援事業の動向と課題』(全社協「権利擁護・虐待  
防止年報2010」)ほか

### コーディネーター



## 平野 隆之 (ひらの たかゆき)

日本福祉大学 社会福祉学部 教授  
日本福祉大学 地域ケア研究推進センター 代表  
CLC名古屋研究センター 所長

地域福祉が専門。都道府県が実施する地域福祉プログラムの研究を進めており、新  
たな地域福祉プログラムの展開として高知県に注目している。2008(平成20)年から  
高知県と共同研究を行い、中山間地における介護保険分析、社協のステップアップ  
研究会、地域福祉計画策定支援、あつたかの評価事業等に取り組んできた。  
主な著書に、『地域福祉プログラム-地方自治体による開発と推進』(ミネルヴァ書房)、  
『地域福祉推進の理論と方法』(有斐閣)、『地域福祉の展開』(放送大学教育振興会)、  
『共生ケアの営みと支援-富山型「このゆびと一まれ」の調査から』(CLC)、『小規模多  
機能ケア実践の理論と方法』(CLC)、『地域福祉を進める力-育てよう、活かそう地域  
の福祉力』(全社協)など。

## 津野町あったかふれあいセンター の取り組み



H25.2.17 これからの集落福祉を考えよう！資料

## 津野町の概要

・人口	6,536人
・世帯数	2,741世帯
・高齢者数	2,485人
・高齢化率	38%
・ひとり暮らし高齢者	400人
・民生児童委員	27人
・福祉委員	170人



### あったかふれあいセンター開所場所

【いちちょうの郷】  
場 所：平成館  
開所日：毎週月曜日

【鶴松の風】  
場 所：旧白石小学校  
開所日：毎週火曜日

【せんだん】  
場 所：旧葉山保育園  
開所日：毎週金曜日



## 鶴松の風

平成23年度  
利用者数  
1,893名



◎介護予防運動や趣味を楽しんだり・・・

◎2ヶ月に1回保健師の健康相談

◎商店による出張販売



◎緊急連絡先の情報収集

◎地域で交流する機会（芋煮会など）

◎地域のためにできることをする  
（草引き・掃除など）

## 新田くつろぎ家

平成23年度  
利用者数  
933名





◎地域の方が先生になります。

◎夏休みや放課後など、子どもたちが宿題をしたり遊びに来ます。

◎自分たちでつくった作品を文化祭に出展しました。



◎バレエ教室の発表の場

◎こども園からのお願いで、そうぎんを縫ってあげたら、子どもたちからお礼のお手紙が届きました。

◎図書室の事業と一緒に、子どもたちとふれあいました。

## いらずのさと

平成23年度  
利用者数  
780名



- ◎若い人たちが作った防災マップを、高齢者の方と一緒に確認します。
- ◎移動図書や読み聞かせに来てくれます。
- ◎行商さんでお買い物します。
- ◎せいらんの里が宅配してくれます。



## いちよの郷

平成24年4月9日  
開所しました。  
12月末現在  
利用者 908名



◎開所に向けて、地域の方々と話し合い

◎地区民運動会の復活

◎畑で野菜作り。収穫したらお食事会

## せんだん

7月27日（金）  
開所しました！  
12月末現在  
利用者 491名



- ◎介護予防運動で健康づくり
- ◎子どもとふれあうバルーンアート
- ◎障害者の方の日中の居場所
- ◎介護認定者・虚弱な方・閉じこもりがち人が多い

## ★取り組みのポイント

- ①地域の住民と協働で運営していく。  
3ヶ月に1回の企画会議の実施  
戸別同行訪問  
介護予防運動リーダー
- ②住民に関心を持ってもらう  
（参加してもらう）仕掛けづくり
  - ・毎月予定表を配付
  - ・あったか情報紙の発行

③きめ細かい送迎・支援の必要な方には、  
庭先までお迎え（全町カバー）

④各関係機関・学校・団体との連携

## ☆今後の取り組み(展望)

- 戸別訪問や周知をして認知度を高める。
- 地域協働で定めた地域福祉活動計画の目標に向け実施していく。
- 企画会議の見直し
  - ◇利用者の声を聞く懇談会
  - ◇住民参加の企画会議

- ・戸別訪問や、ニーズの発掘を行う。  
(小地域ケア会議)
- ・勉強会の開催や、情報を伝える場をつくる。

## 地域の拠点として

地域を元気に！！

地域の住民の皆さんと一緒に、あったかを中心として、住み慣れた地域で安心して暮らせるように、地域の課題をみんなで共有し、支えあいや助け合いで解決していけるような仕組みづくりを楽しみながら目指していきたい

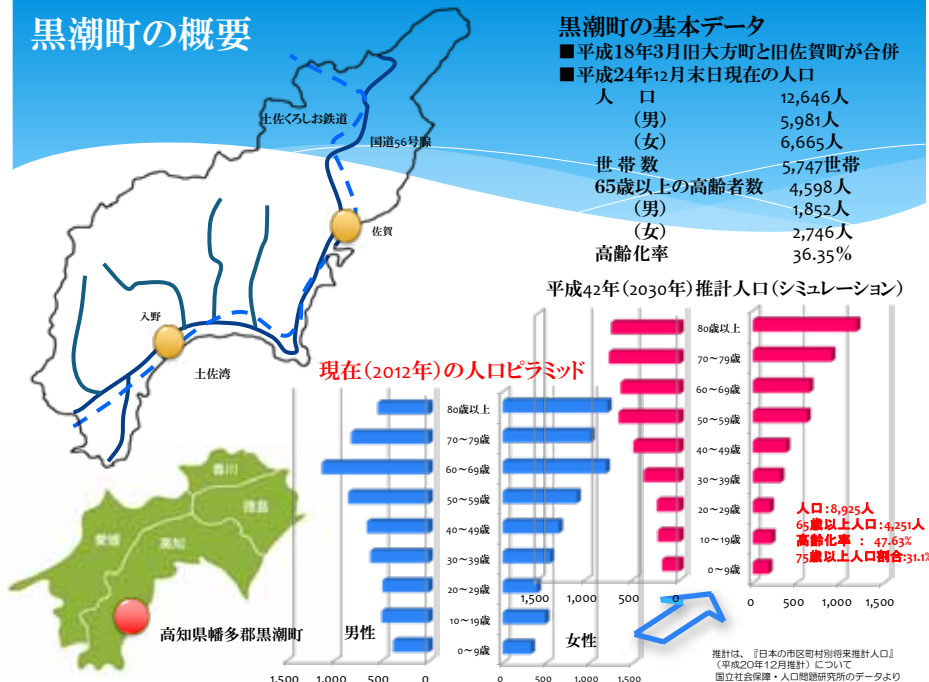


MEMO

# あったかふれあいセンター に関する黒潮町の事例

平成25年2月  
高知県幡多郡黒潮町

## 黒潮町の概要



## あったかふれあいセンターとは

あったかふれあいセンターとは、見守り・支え合いの地域づくりのため、子どもから高齢者まで誰もが気軽に集い、生活支援サービスなどを受けられることができる拠点として、高知県が整備を推進している事業です。

**集う** …… サロン、デイサービス、放課後の子どもの居場所等、誰もが自由に日中過ごすことができる事業

### 付加機能（少なくとも1機能は実施）



- ① **預かる**（託児所や宅老所等、緊急時の一時預かりを行う）
- ② **働く**（障がい者等の就労支援及び生活訓練を行う）
- ③ **送る**（あったかふれあいセンターへの送迎を行う）
- ④ **交わる**（花見や収穫祭等、利用者同士の交流ではなく、他施設や団体、利用者以外の地域住民との交流）
- ⑤ **学ぶ**（利用者やボランティアなどを対象にしたミニ講座や研修会等、地域福祉が推進されるための勉強会等）

**訪問** …… 独居高齢者や障がい者の見守りや相談活動等のために訪問する事業

**相談** …… 地域の要援護者やその家族、地域住民からの福祉サービスに関することや、日常生活での困りごとや気にかかることなどの相談に応じる事業

**つなぎ** …… 相談・訪問活動等によって発見されたニーズや課題を市町村や包括支援センター、専門機関につなぎ、連携して必要な支援に取り組む事業

**生活支援** …… 地域の生活課題やニーズに応じた生活支援サービスの仕組みづくりやコーディネート、サービスの提供、地域での支え合いの仕組みづくりなどの事業

### 機能拡充（新たな事業展開の実施に必要とされる機能）

- A. **泊り**（緊急時に支援が必要な高齢者や障がい者等を一時的に預かり、泊ることができる事業）
- B. **移動手段の確保**（買い物や病院への通院等のための移動手段を支援する事業）
- C. **配食**（高齢者や障がい者等の食の確保、低栄養対策等を行う事業）

※ 上記より、地域の実情に合った機能を選び、組み合わせて実施します。

## 地域福祉計画策定により抽出された課題

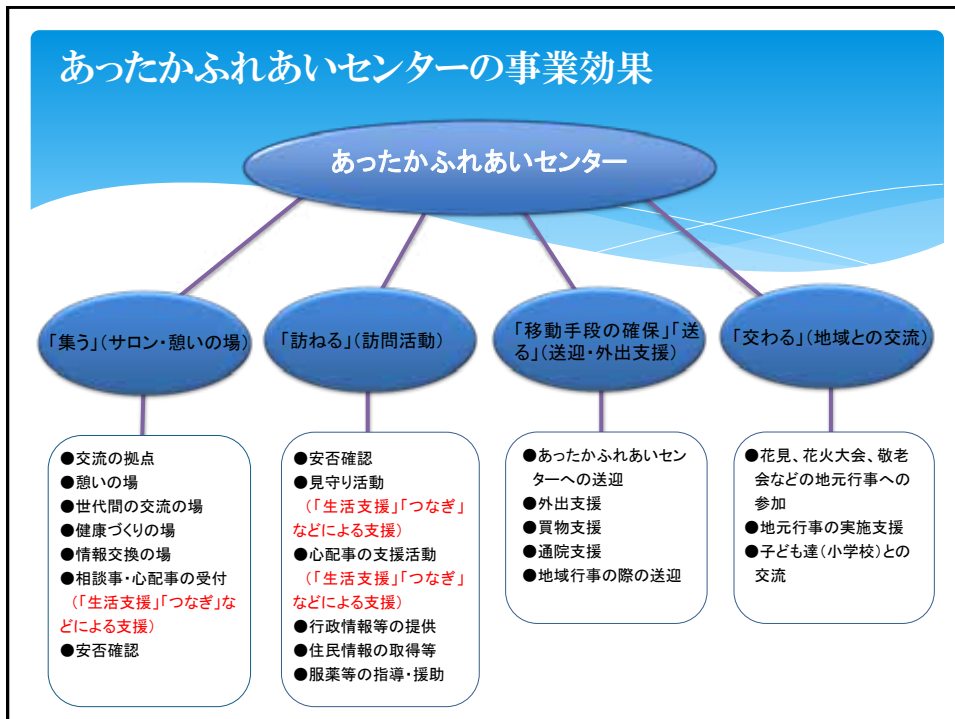
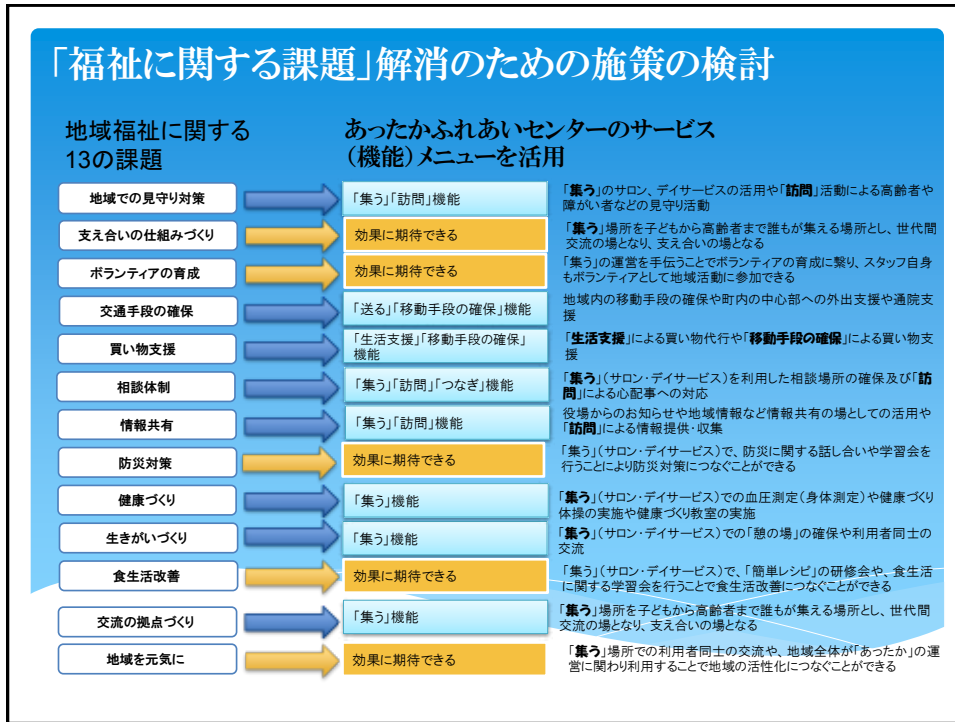
平成23年度に「黒潮町地域福祉計画」を策定

- ① 住民アンケート（配布数700部）
- ② 住民座談会（11地区 120名参加）
- ③ 団体・事業所アンケート（21団体）
- ④ 大方・佐賀中学校2年生アンケート（87名）
- ⑤ ヒアリング調査（40名）
- ⑥ 作業部会、策定委員会

黒潮町の福祉に関する課題として13項目が抽出

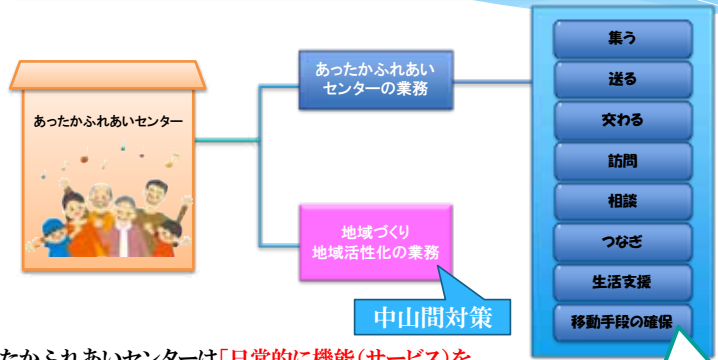
地域での見守り対策	支え合いの仕組みづくり	ボランティアの育成
交通手段の確保	買い物支援	相談体制
情報共有	防災対策	健康づくり
生きがいづくり	食生活改善	交流の拠点づくり
地域を元気に		





## あったかふれあいセンター導入に関する基本方針

あったかふれあいセンターは、住民の自発的で自主的な活動の拠点となる施設であり、住民活動への手助けをする場所です。あったかふれあいセンターの基本的なサービスの他に、住民の身近な施設として地域の活動にも積極的に協力し、地域づくりや地域の活性化を図ります。



あったかふれあいセンターは「日常的に機能(サービス)を提供しながら、地域づくり(地域の活性化)に貢献する施設とする」ことを基本方針として位置付け

地域と行政が話し合っ、機能(サービス)を選択して実施する。

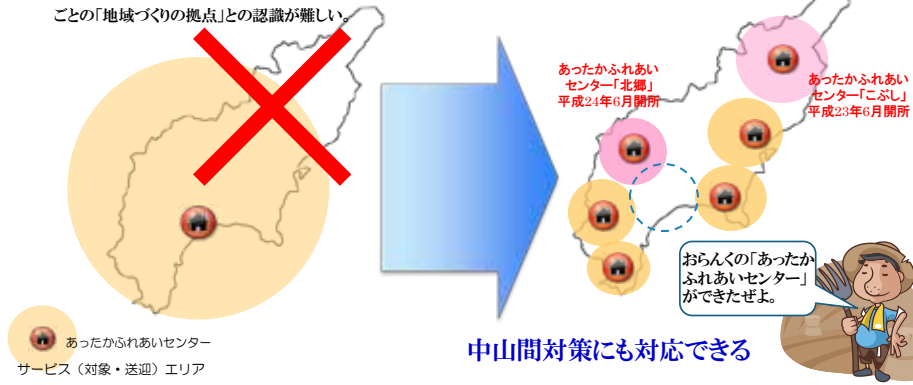
## あったかふれあいセンターの設置方針

町の中心部などに大きなあったかふれあいセンターを設置

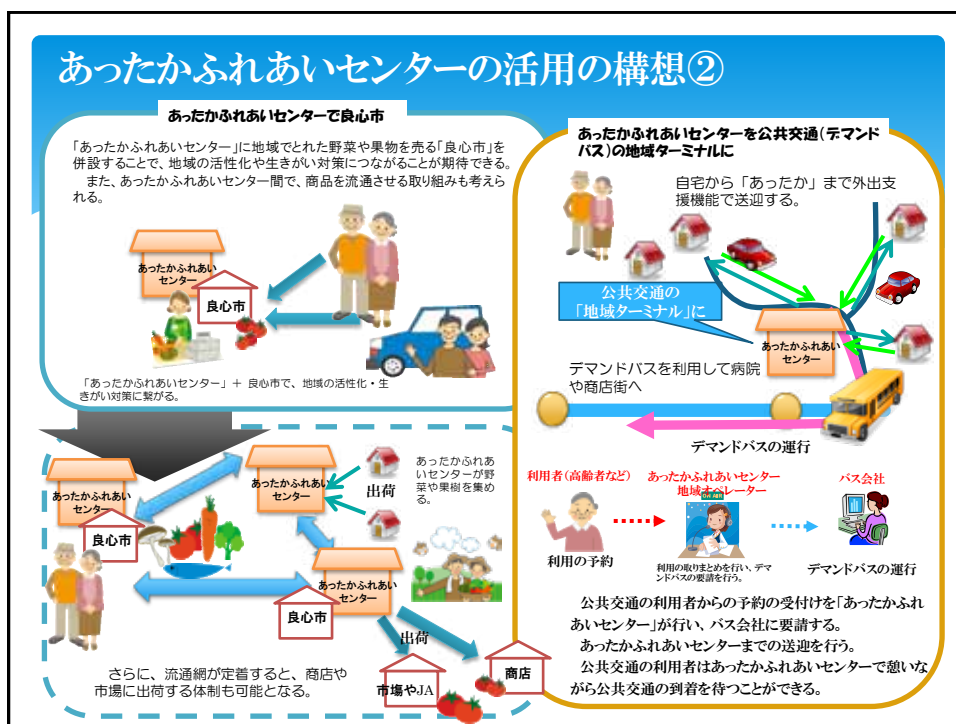
- ① 地域の特徴を活かした「地域づくり(地域の活性化)に貢献する施設」として活用が難しい。
- ② 町の中心部にのみ人が集まるので、中山間地域や漁村部が、ますます寂れてしまう。
- ③ 大人数となるので、一人ひとりへのきめ細かなサービスの提供が難しい。
- ④ 高齢者や障がい者へのサービスの場所と認識され、地域ごとの「地域づくりの拠点」との認識が難しい。

各地域にあったかふれあいセンターを設置することにより、地域づくり(中山間対策等)にも対応できる。

- ① 中山間部や漁村部に設置することにより、それぞれの地域の「地域づくり」に貢献しやすくなる。
- ② 地域の存続にも苦慮している地域については、地域活動の手助けなども可能となる。
- ③ 地域に密着したサービスの提供ができる。
- ④ 地域の「交流の場」の提供に繋がる。



中山間対策にも対応できる



## あったかふれあいセンター「こぶし」の運営状況①

### あったかふれあいセンター「こぶし」の概要

- 開所の日：平成23年6月1日
- 運営時間：毎週月曜日～金曜日  
(午前10時～午後3時)
- 場所：黒潮町高齢者生活福祉センター  
「こぶし」2階
- 参加費：無料
- 対象者：黒潮町内在住の方  
(送迎は佐賀北部地域が中心)
- 実施方法：黒潮町社会福祉協議会に委託
- スタッフ数：3名

### 特徴

#### 子ども達と交流がある。

近所の住宅の子ども達が、放課後や夏休みなどに遊びに来ることも多く、子ども達との交流も盛んとなっている。



「小学生の使い方のきまり」(小学校作成)の張り紙が貼られている。



#### 収穫祭を予定

地域と小学校、あったかふれあいセンターが一体となり、「芋掘り」(さつまいも)の収穫祭を今秋に予定している。

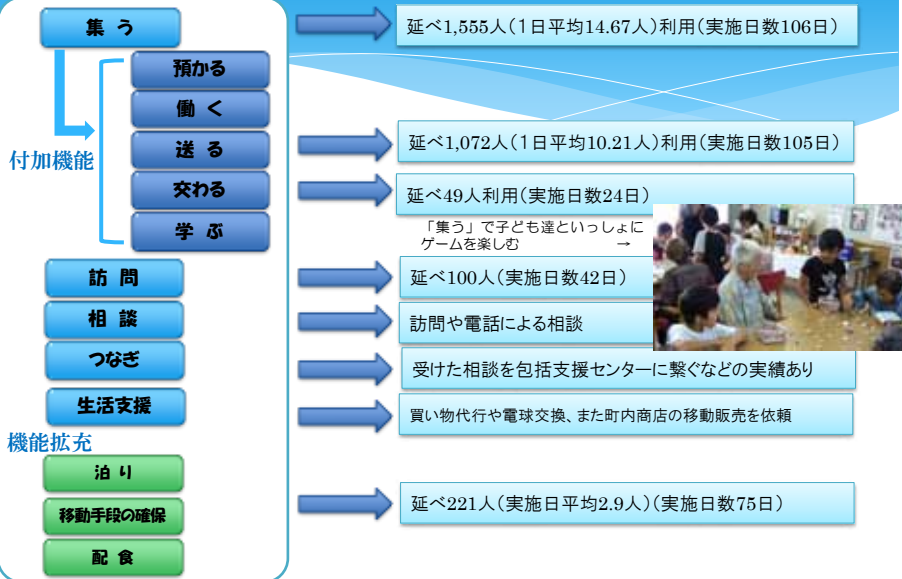
地元のスーパーマーケットによる移動販売も実施



## あったかふれあいセンター「こぶし」の運営状況②

### あったかふれあいセンター事業の機能

### 平成24年度(4月～8月末)までの利用実績



## あったかふれあいセンター「北郷」の運営状況①

### あったかふれあいセンター「北郷」の概要

- 開所の日：平成24年6月1日
- 運営時間：毎週月曜日～金曜日  
(午前10時～午後3時)
- 場所：黒潮町加持川（旧北郷小学校）
- 参加費：無料
- 対象者：黒潮町内在住の方  
(送迎は北郷～加持地域が中心)
- 実施方法：黒潮町社会福祉協議会に委託
- スタッフ数：3名



### 特 徴

- 集落活動センターを併設している。
- スタッフ全員を地元雇用している。  
あったかふれあいセンター「北郷」のスタッフ全員を地元地域から雇用し、「北郷祭（花火大会）」にも参加し、地域づくりに貢献している。

←「集う」の時間に畑作り

### 地元の思いで「もち投げ」(開所式)

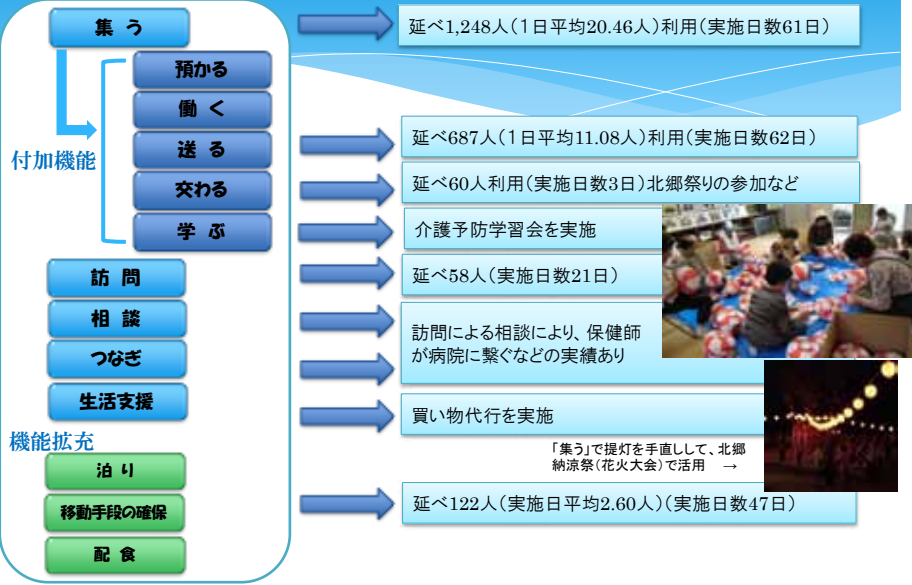
地元の地域が自主的に寄付金を募り、「あったかふれあいセンター」の開所日にもち投げを実施した。

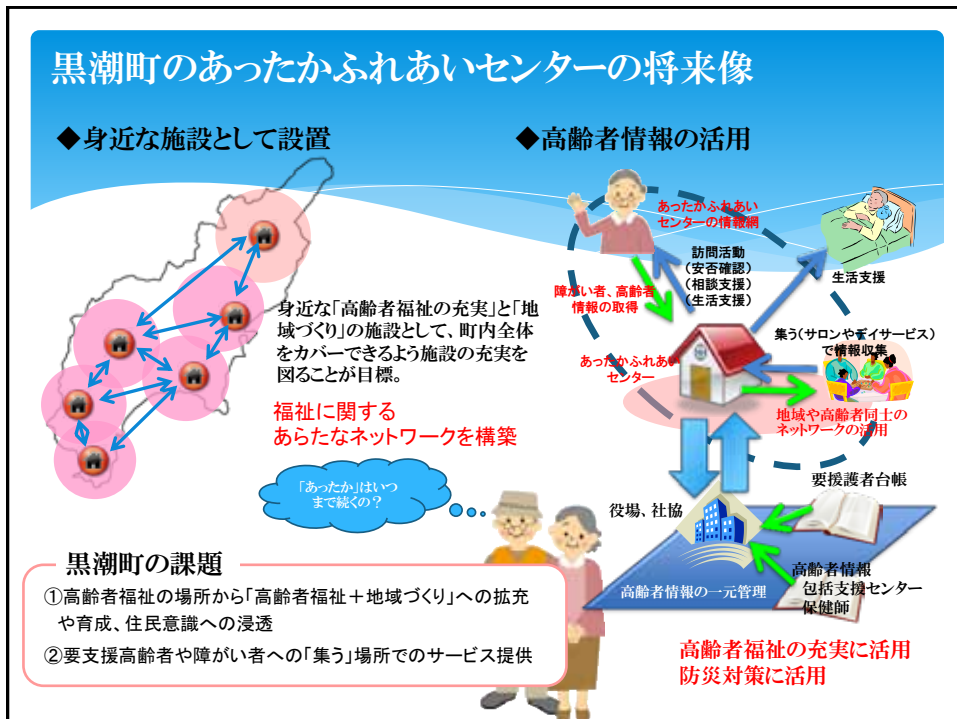


## あったかふれあいセンター「北郷」の運営状況②

### あったかふれあいセンター事業の機能

### 平成24年度(6月～8月末)までの利用実績





## 導入に向けてのコンセプトのまとめ

あったかふれあいセンターは、各種の福祉サービスを行うとともに、住民の自発的で自主的な活動の拠点であり、住民活動の手助けをする場所です。

高齢者や子ども達だけではなく、地域のだれもが「あったかふれあいセンター」に来て、お茶を飲み、憩いながら、課題解消に向けての話合いや、地域の活性化などについて検討をする場所として活用していただきたいと考えています。

MEMO